

工事事故(速報)の情報提供について

工事の安全管理には、日頃から万全を期していただいているところではありますが、この度、残念ながら別紙に示す工事事故が発生しました。

各事務(管理)所の工事現場において、このような工事事故が再び発生することのないように工事事故概要を皆様にお知らせいたします。

本資料を活用し、受注者を適切にご指導頂き、再発防止に努めて頂きますようお願いいたします。

※今回掲載している工事事故事例(別紙)は、7件分です。8件目の事例(別紙-8)については、原因・対策等を調査中のため、未掲載です。

【工事事故(速報)発生状況】 (H25.10.31現在)

	10月発生件数	累計件数	死亡者数	負傷者数
平成25年度(今年度)	8件	40件	1人	16人
平成24年度(昨年度)	13件	85件	1人	32人

注1) 上記は、関東地方整備局管内の工事事故発生件数(速報)を示す。

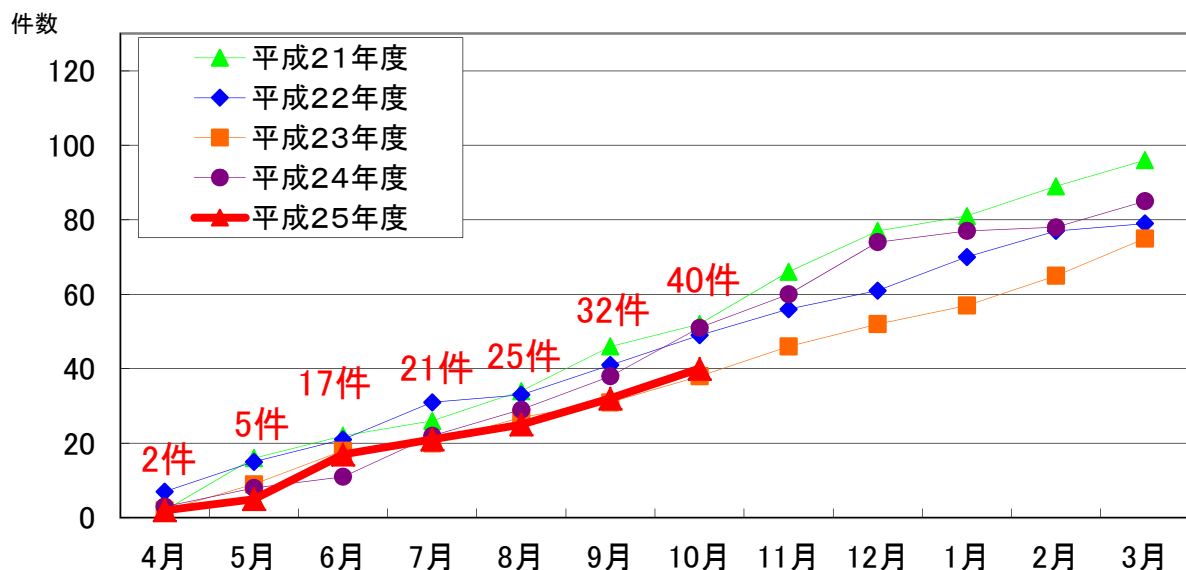
注2) 「10月発生件数」は、10/1～10/31の間に起きた件数。(月毎分)

注3) 「累計件数」は、4/1～3/31の間に起きた件数。(累計分)

注4) 「死亡者数」・「負傷者数」は、4/1～3/31の累計人数を示す。

注5) 平成25年度の数字は「速報」であり、審査の結果、「不問」になる可能性がある。

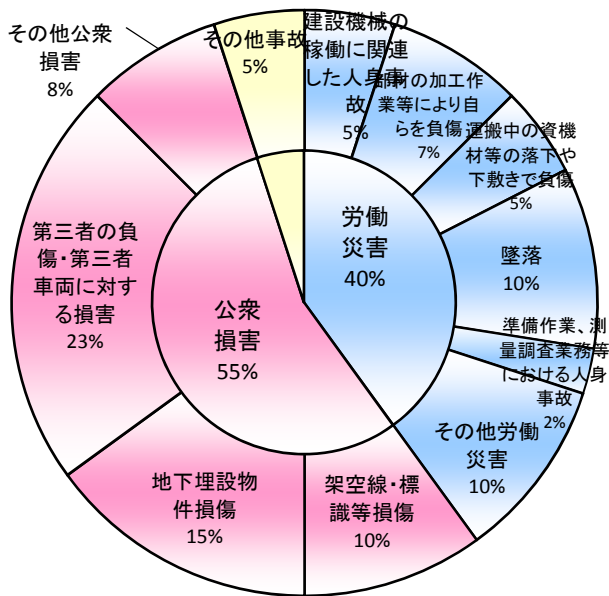
●工事事故件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成21年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	16件 (14件)	22件 (6件)	26件 (4件)	34件 (8件)	46件 (12件)	52件 (6件)	66件 (14件)	77件 (11件)	81件 (4件)	89件 (8件)	96件 (7件)
平成22年度 累計 (月毎)	7件 (7件)	15件 (8件)	21件 (6件)	31件 (10件)	33件 (2件)	41件 (8件)	49件 (8件)	56件 (7件)	61件 (5件)	70件 (9件)	77件 (7件)	79件 (2件)
平成23年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	9件 (7件)	18件 (9件)	20件 (2件)	27件 (7件)	31件 (4件)	38件 (7件)	46件 (8件)	52件 (6件)	57件 (5件)	65件 (8件)	74件 (9件)
平成24年度 累計 (月毎)	3件 (3件)	8件 (5件)	11件 (3件)	22件 (11件)	29件 (7件)	38件 (9件)	51件 (13件)	60件 (9件)	74件 (14件)	77件 (3件)	78件 (1件)	85件 (7件)
平成25年度 累計 (月毎)	2件 (2件)	5件 (3件)	17件 (12件)	21件 (4件)	25件 (4件)	32件 (7件)	40件 (8件)					

※なお、平成21年度工事事事故より、国の管理物損傷事故件数を措置の対象としている。

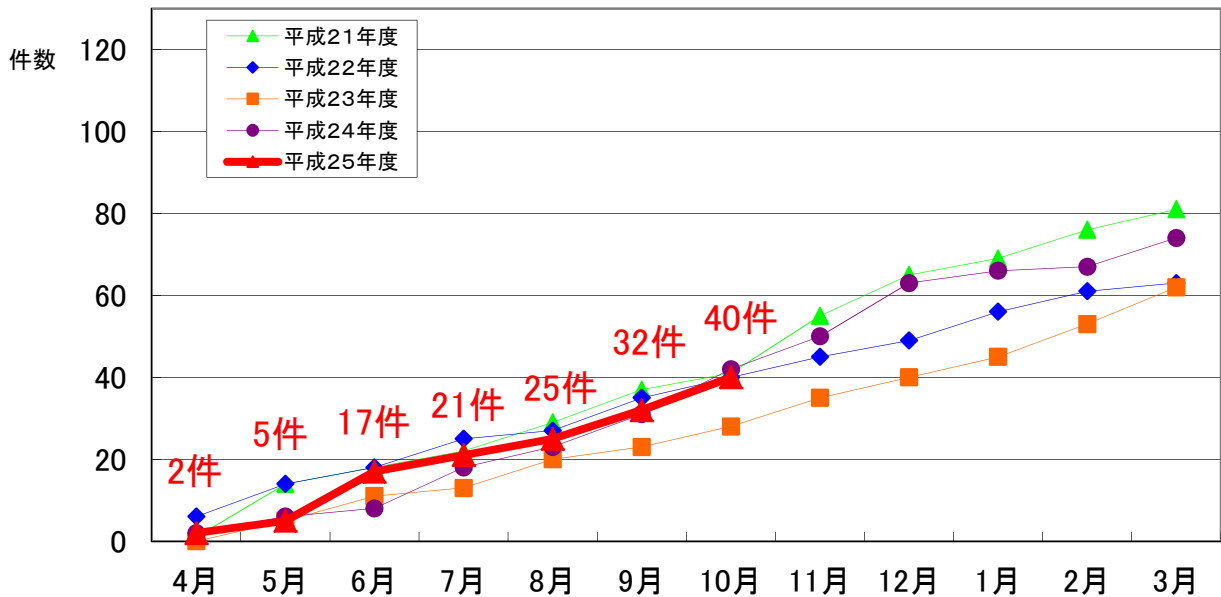
●平成25年度 工事事故発生状況(発生形態別)



	発生形態	H23	H24	H25	過去3年間計
労働災害	建設機械の稼働に関連した人身事故	4	7	2	13
	部材の加工作業等により自らを負傷	1	0	3	4
	運搬中の資機材等の落下や下敷きで負傷	5	9	2	16
	墜落	3	5	4	12
	準備作業、測量調査業務等における人身事故	0	0	1	1
	その他労働災害	1	6	4	11
	小計	14	27	16	57
公衆損害	架空線・標識等損傷	9	10	4	23
	地下埋設物件損傷	8	7	6	21
	第三者の負傷・第三者車両に対する損害	22	19	9	50
	その他公衆損害	18	19	3	40
	小計	57	55	22	134
	その他事故	3	3	2	8
	計	74	85	40	199

●H25年度重点的安全対策項目

(参考)工事事故のうち、「その他公衆損害」における車両管理業務等の車両の自損事故を除く事故件数(車両管理業務等の車両の自損事故を除いた工事事故件数)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成21年度 累計(月毎)	1件(1件)	14件(13件)	18件(4件)	22件(4件)	29件(7件)	37件(8件)	41件(4件)	55件(14件)	65件(10件)	69件(4件)	76件(7件)	81件(5件)
平成22年度 累計(月毎)	6件(6件)	14件(8件)	18件(4件)	25件(7件)	27件(2件)	35件(8件)	40件(5件)	45件(5件)	49件(4件)	56件(7件)	61件(5件)	63件(2件)
平成23年度 累計(月毎)	0件(0件)	5件(5件)	11件(6件)	13件(2件)	20件(7件)	23件(3件)	28件(5件)	35件(7件)	40件(5件)	45件(5件)	53件(8件)	62件(9件)
平成24年度 累計(月毎)	2件(2件)	6件(4件)	8件(2件)	18件(10件)	23件(5件)	31件(8件)	42件(11件)	50件(8件)	63件(13件)	66件(3件)	67件(1件)	74件(7件)
平成25年度 累計(月毎)	2件(2件)	5件(3件)	17件(12件)	21件(4件)	25件(4件)	32件(7件)	40件(8件)					

■問合せ先:企画部 技術調査課 遠藤・桑田 (TEL 048-600-1332)

発生日時	平成 25 年 10 月 3 日 (木) 14 時 30 分				天候	晴
工事情報	営繕系事務所 建築工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	—	—	—	機器配線切断		
事故概要	建物のスラブを解体中、機器の配線を切断したもの。					
	公衆損害－第三者の負傷・第三者車両に対する損害					

事故発生状況



- ・解体中に配管が確認されたため、電圧計にて通電しているか確認し、その結果電流が流れていない事を確認したので、すでに撤去された機器の配線と思い電線カッターにて、切断した。
- ・切断した結果、その配線は使用していた配線だった為、機械が作動しなくなった。
- ・テスターは故障しており、使用前のテスターの点検を実施していなかった。

【事故発生原因】

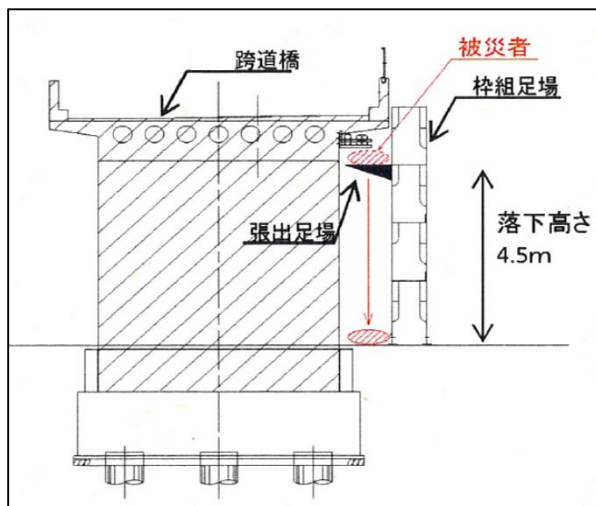
- ・スラブ内の配線に関する注意不足
- ・テスターの点検未実施
など

【事故防止のポイント】

- ・配線があると予想される場合には、慎重に作業を実施する。
- ・テスターの使用前点検を実施する。
など

発生日時	平成 25 年 10 月 4 日 (金)					9 時 40 分	天候	曇
工事情報	道路系事務所 一般土木工事							
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度				
	男	24	とび工	第12胸椎・第1腰椎脱臼骨折(全治3ヶ月)				
事故概要	橋梁上部工に添架物(水道管等)設置作業が終了し、張り出し足場を解体中、張り出し足場から桝組足場へ移動する際、作業員が足場から墜落し負傷したもの。 労働災害－墜落							

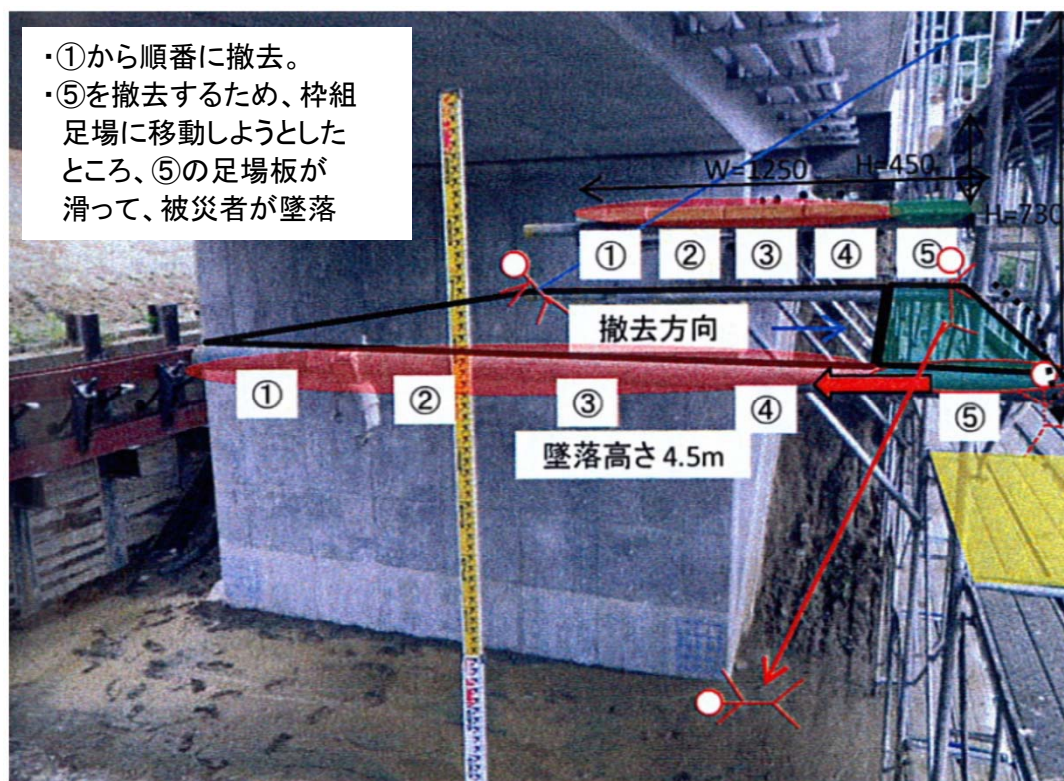
事故発生状況



・張り出し足場の解体作業中、被災者は張り出し足場の足場板を安全帯を使用しながら外側から順に取り外していった。

・最後の1枚の足場板を桝組み足場側から撤去するため、桝組足場へ移動しようとした際、使用していた安全帯を一時的に外して移動をした。

・そのときに、足場板が滑り、足場上から落下し、被災した。



- ・①から順番に撤去。
- ・⑤を撤去するため、桝組足場に移動しようとしたところ、⑤の足場板が滑って、被災者が墜落

【事故発生原因】

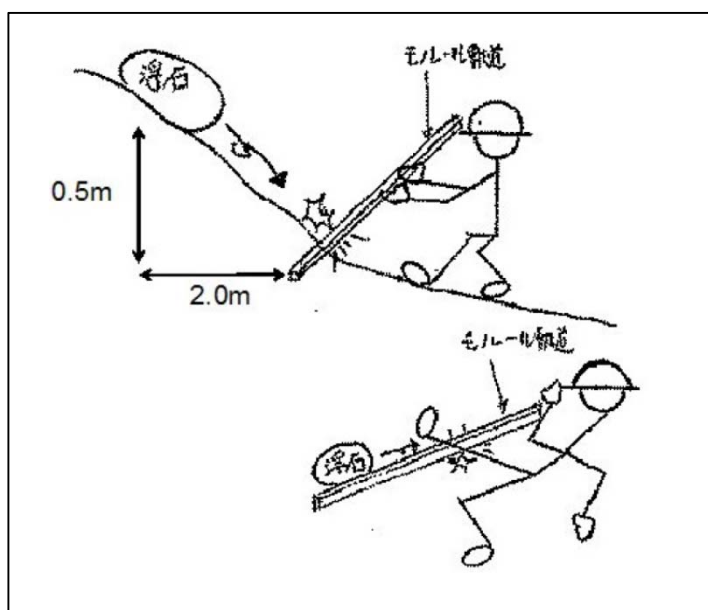
- ・安全帯を使用していなかったため。
など

【事故防止のポイント】

- ・安全帯の使用。
- ・墜落防止の安全教育の徹底。
など

発生日時	平成 25 年 10 月 4 日 (金) 11 時 55 分				天候	晴
工事情報	河川系事務所 地質調査業務					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	男	49	ボーリング助手	右足スネ開放骨折(全治6週間)		
事故概要	斜面においてモノレール架設作業中、斜面上部の浮き石(φ70cm大)が転がり、モノレール部材に衝突。その際、モノレール部材と地面の間に作業員の右足が挟まれ、負傷したもの。					
	労働災害ーその他労働災害					

事故発生状況



・地質調査ボーリングが完了し、機材を搬出する作業を行うために、台風で損壊した部分のモノレールを撤去し再設置するため、新しいモノレール部材を運搬中であった。

・被災者は交換用モノレールを両手で保持していた。その際、被災者の左側にあったφ70cm大の浮石が崩落した。

・浮石は被災者が持っていたモノレール部材左側に衝突し、その勢いで被災者が転倒。浮石は、モノレール部材左端をヒンジとして作用し、モノレールに沿って落下した。

・浮石衝突の重みでモノレールのラック歯が被災者の右足スネに強く押し付けられ、その結果、右足スネ上部に開放骨折を負った。

【事故発生原因】

・降雨後の浮き石の点検が不十分であった。
など

【事故防止のポイント】

・降雨後など、斜面の浮き石の挙動が不安定になると予想される時は作業前に点検を行い、落下の恐れがある土石などを除去する。
など

別紙

発生日時	平成 25 年 10 月 7 日 (月)				14 時 20 分	天候	晴
工事情報	公園系事務所 一般土木工事						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	—	—	—	通信用配管切断			
事故概要	標識基礎設置のため、バックホウで床堀作業をしていたところ、埋設してあった通信ケーブル用の配管をバックホウのつめに引っ掛けて切断したもの。						
	公衆損害—地下埋設物件損傷						

事故発生状況

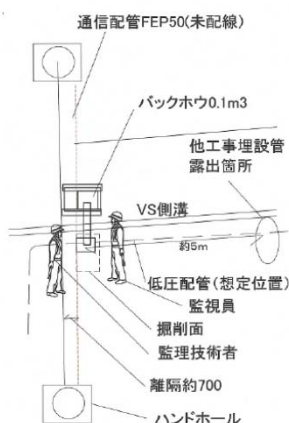
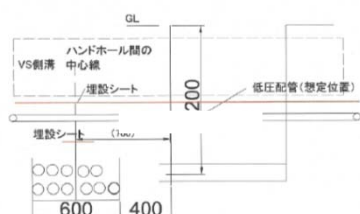


写真3 切断箇所



【事故発生原因】

- ・地下埋設物に対する注意不足。
など

【事故防止のポイント】

- ・地下埋設物がある場所での作業は、慎重に実施する。
など

・標識基礎設置床堀作業中、バックホウ0.1m3級で埋設通信配管FEP50をバックホウで切断した。

・事前に埋設系統を配管図、HHの位置で確認し、切断した通信配管系統はHHの中心線より約70cm程度離れており掘削予定断面内にある可能性が低いと判断した。

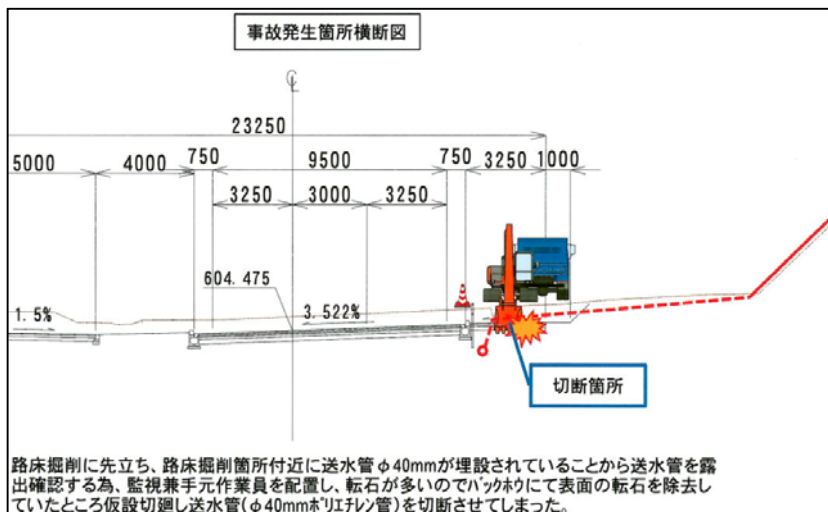
・今回切断系統とは別系統の低圧配管がVS沿いに埋設してあることが図上及び露出していた配管で確認でき、その方が危険だと判断し、人力先行で掘削していた。

・しかし低圧配管の埋設シートが確認できず露出した低圧配管よりも深く掘削しても低圧配管が出ないので埋設配管がないと思い、人力掘削作業員を他の作業につけ機械掘削をし掘削予定断面にはないと想定した通信配管を切断した。

・当該箇所における試掘は実施していなかった。

発生日時	平成 25 年 10 月 19 日 (土)				9 時 15 分	天候	晴
工事情報	河川系事務所 一般土木工事						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	—	—	—	水道管損傷			
事故概要	付替道路の路床掘削作業時に、転石除去中にバックホウにて既設水道管を切断したもの。						
	公衆損害—地下埋設物件損傷						

事故発生状況



【事故発生原因】

- ・地下埋設物に対する注意不足。
など

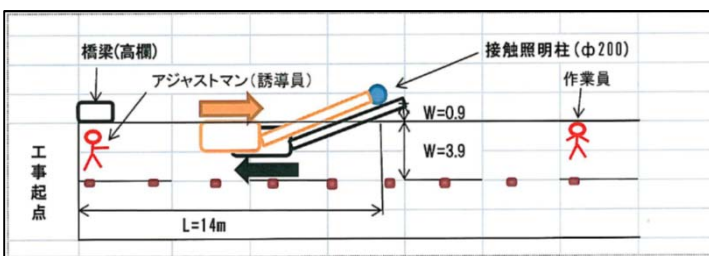
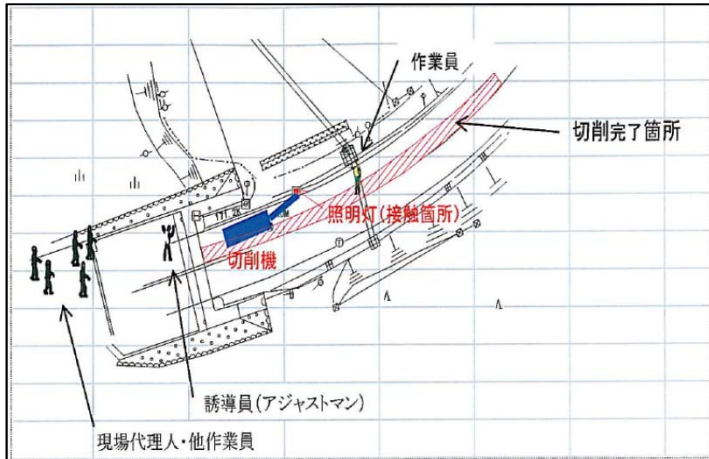
【事故防止のポイント】

- ・地下埋設物がある場所での作業は、慎重に実施する。
など

- ・事故当日は現場にて8:00より朝礼及びKYを行った後、国道現道脇にて路床掘削を行う予定であった。
- ・路床掘削箇所付近に送水管φ40mmが埋設されていることから送水管を露出確認する為、監視兼手元作業員を配置し、転石が多いのでバックホウにて表面の転石を除去していた。
- ・その際、仮設切廻し送水管(φ40mmポリエチレン管)を切断させてしまった。
- ・転石を人力掘削での除去が困難であると判断し、機械で除去を行った。
- ・当該箇所における試掘は実施していなかった。

発生日時	平成 25 年 10 月 19 日 (土)				9 時 50 分	天候	晴
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事						
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度			
	—	—	—	照明柱損傷			
事故概要	路面切削作業中、下り車線センター側の路面切削完了後、路肩側の路面切削を行う為、切削機が施工起点側に移動中、照明灯の支柱部分に切削廃材積込用ベルトコンベアが接触し、照明灯支柱を損傷させたもの。 公衆損害—その他公衆損害						

事故発生状況



・施工起点側に戻る際、ベルトコンベアを上り線側に出さない様、ベルトコンベアを歩道側に振り後退させていた。

・作業員の声掛けにより照明灯への接触に気が付いたオペレーターがベルトコンベアを車道側へ戻そうとした際、誤ってベルトコンベア操作レバーと前進レバーを同時に動かしベルトコンベアで照明灯支柱を押し込み傾けさせた。

・歩道や路肩等にある付属物には明示をしていなかった。現場状況を踏まえていない手順書だった。



【事故発生原因】

・周辺構造物に対する注意不足など

【事故防止のポイント】

・作業前に現地をよく確認し、注意喚起等、必要な安全措置を実施する。
など

発生日時	平成 25 年 10 月 28 日 (月) 22 時 3 分				天候	晴
工事情報	道路系事務所 維持修繕工事					
被災の状況	性別	年齢	職種	被災の程度		
	—	—	—	信号機ケーブル引き抜き		
事故概要	バックホウにて既設照明灯基礎部を掘削作業中、信号機ケーブル用埋設配管を引き上げてしまい、信号機1機が不点灯となったもの。					
	公衆損害ー地下埋設物件損傷					

事故発生状況



バックホウで配管を引き上げた



ケーブルを引き上げてしまい、端子台から外れてしまった。

・バックホウにて既設照明灯基礎部を掘削作業中、警察管理の信号機ケーブル用埋設配管(FEP管φ約50)を引き上げてしまい、信号機1機が一時不点灯となり、その2分後交差点内すべての信号が点滅に切り替わった。

・埋設配管を引き上げた拍子で、信号柱下部の端子台からケーブルが5本抜け落ちてしまったので、再接続することで、交差点内の信号機すべてが復旧した。

・埋設管路(FEP管)が損傷。中のケーブルには損傷なし。

・図面等による事前確認を実施したが、埋設深さの詳細は不明であり、信号機近くのハンドホールで確認したところ、55cm付近にケーブルが確認できたので、40cmから手掘での作業を予定していたが、実際の埋設深さ30cmであったため、引っ掛けてしまった。

・当該箇所における試掘は実施していなかった。

【事故発生原因】

- ・地下埋設物に対する注意不足。
など

【事故防止のポイント】

- ・地下埋設物がある場所での作業は、慎重に実施する。
など